

「地産地消」「国消国産」で 食卓からSDGsを始めよう。



JAグループサポーター・林修

日本の食と農、SDGsの実現のために
「地産地消」「国消国産」

私たちが地域でできること —「地産地消」

日本の食と農、SDGsのために、地域でできる取り組みが「地産地消」。その地域で生産された農畜産物を、その地域内で消費することです。例えばファーマーズマーケットを利用すれば、新鮮な地元の農畜産物に出会えます。また、食材の長距離輸送にともなうCO₂の排出削減につながり、環境への負荷を減らせます。



日本の食と農を 未来につなぐ—「国消国産」

「地産地消」をはじめ、国産の農畜産物を消費することで、食の安心をすすめていくこと。それが「国消国産」。国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方です。日本の食料自給率はカロリーベースで37%。6割を輸入に頼っており、このままでは、いざという時に心配です。生産者は今、消費者ニーズに応える農畜産物づくりに取り組んでいますが、日本の食を守るためには、国産農畜産物をもっと食べて、農業を応援していくことが重要です。

持続可能な社会を —SDGsにつながる「国消国産」

このまま日本が国内生産を増やさず、食料を海外に依存し続けたらどうなるか。安易に途上国から輸入をすることで、その国の食料を奪う可能性はないのか。「地産地消」「国消国産」をすすめることは、持続可能な食料、農業、地域社会、環境など、SDGsの実現に貢献します。またJAグループは、子ども食堂への食材提供、農業従事者への各種支援、フードロス削減など、さまざまな活動を展開し、SDGsの達成を目指しています。

SDGs 持続可能な開発目標

JAグループの取り組み

- 「飢餓をゼロに」
- 子ども食堂やフードバンクへの食材提供
- 「働きがいも経済成長も」
- 農業従事者への各種支援
- 「つくる責任つかう責任」
- 「フードロス削減」
- 「エシカル消費の推進」
- 「農業生産における環境負荷の軽減 など」



10月16日は
「国消国産の日」

10月16日は1945年に国連食糧農業機関 (FAO) が発足した日です。国連はこの日を「世界食料デー」に定め、JAグループは「国消国産の日」として日本記念日協会に登録しました。JAグループは皆さんと共に「国消国産」をすすめ、持続可能な社会の実現を目指していきます。

